

目標達成計画

作成日: 平成 26 年 10 月11 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		「楽しみの支援の強化」 介護度の差が顕著の為、重度な方に職員の手が取られる。個別の要望に関して重度の方の要望をいかにして拾いあげるか、軽度の方の要望はどのようにして叶えていくのか。	散歩や外出も含めた、個別に関わる時間を増やし、手薄になる事への対策として、マンパワーを必要としない余暇の過ごし方を提供(ビデオ鑑賞、利用者が一人でもできる作業等)ができる。	まずは利用者それぞれのニーズを担当者を中心として挙げ、より本人本意のものとなるよう皆で精査し、それをどのように工夫すれば行えるかの話し合いを持つ(会議等にて)。提供方法について、必要な場合は日課から見直す等抜本的に行う。	12ヶ月
2		「職員教育」 利用者の介護度が重度な方も多く、軽度の方との差が顕著である。ケア目標のアウトホームというのは反面、礼儀を崩しかねず、寄り添いの介護が利用者の本意となるものである必要がある。	グループホームの心得(当ホームの理念)を意識し、職員倫理に乗取った利用者、家族への対応を崩さず継続する。 利用者や、認知症のこともきちんと理解し、利用者本意のサービスが提供できる。	支持が指示に。安心安全が支配にならない介護。行き過ぎた介護に注意し、利用者本意のものとは何か、職員同士で話し合い、常意識を持つ。また、認知症の勉強会を行いました。(9/30)伝達研修を行い、職員全員が理解し、サービスに活かす。	12ヶ月
3		「運営推進会議」 平日開催の為、家族参加の機会がなく、毎月のお便りで家族の声を募集しているが、毎回あがってくるものではないのが現状。家族にもっと興味をもってもらえる会議である必要がある。	アンケート等で家族の希望や意見を把握し、運営推進会議で話あい、その返答をお便りに掲載、家族に運営推進会議に興味を持ってもらえるように努め、参加していただけるようになる。	7月の運営推進会議で話し合った結果、家族の集いの時に行くと雰囲気を壊しかねない、休日の開催も役員様方が難しい、家族参加が難しいのであれば、アンケートで意見を定期的に徴収してみてもとの意見で、9月アンケート実施。現在返信待ち	12ヶ月
4		「アセスメント」 ケアプランの更新に関し、新たなケアプランの立案に使用するアセスメント用紙について。現在モニタリング用紙に添付した形でアセスメントは存在はするものの、情報量が少なく、その根拠がわかりにくい	ケアプランの原案を作る際に、別紙にて詳しく、見やすい形でアセスメントを行う事で、よりその根拠と、利用者の現在の身体状況を把握しやすくなる。	センター方式「D-1」のできるできないシートと、「D-2」のわかること、わからないことシートを抜粋し、ケアチェックという形で、アセスメントを行う。なお担当者は、アセスメントを全員がモニタリングチェックを終える15日以降20日までに行い、プランの立案と一緒に提出する。	6ヶ月
5		「急変時対応」 急変時や事故発生時の対応について。外部評価の後、夜間転倒事故がみられ、オンコール職員へ連絡するも繋がらず、その他の職員にも繋がらない事があった。事故時のオンコール対応を見直す	今までは夜勤明けの職員がオンコール対応職員であったが、明け職員の疲労や、夜間の救急搬送が頻繁にないことから意識が薄い。左記の対応で、安定して連絡が繋がるよう対応。オンコール職員は連絡があれば病院へ向かう。	夜間の救急対応について。管理者が常のオンコール職員とする。オンコールの順番を決めておき、管理者が夜勤や、連絡が万一つかない時は、その職員に連絡する等の対応がとれるよう体制を整える。交通手段や手当等は検討が必要。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。